

Library News

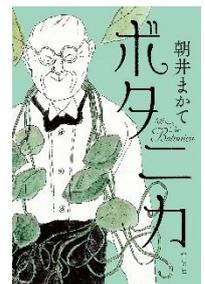
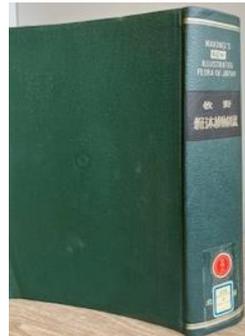


大山崎中学校図書室

令和5年 6月

牧野富太郎と植物の世界

NHK の朝ドラで今放映中の「らんまん」、いろいろなところで取り上げられ話題になっていますが、主人公のモデルは明治から昭和にかけて活躍した日本植物学の父といわれる牧野富太郎です。図書室には牧野富太郎の著作、『牧野 新日本植物圖鑑』があります。約 4000 種の植物を自らの植物画とともに表したこの図鑑は牧野富太郎が心血をそそいだ、自身の集大成ともいえるもので、昭和 36 年に弟子たちの改版を経て発行されました。(山中図書室のものは昭和 45 年の 20 刷のもの) 現在廃刊であり、読むことが難しくなっています。大山崎町の図書室にも蔵書はありません。ぜひこの機会にご覧ください。



また、図書室には牧野富太郎の伝記『牧野富太郎【日本植物学の父】』牧野の生涯を描いた小説『ボタニカ』（朝井まかて）もあります。



植物が出てくるこんな恋愛小説も・・・



『愛なき世界』三浦 しをん

植物が大好きな本村さんは大学院で植物の研究に打ち込む毎日。そんな本村さんに恋をしてしまったのが大学前の洋食屋の住み込み店員、藤丸くん。はたして藤丸君は植物しか興味のない本村さんの心をつかむことができるのか…何やらドロドロの愛憎渦巻くメロドラマを想起させるような題ですが、内容はさわやかなラブコメディ。牧野富太郎の植物学、植物への愛が脈々と受け継がれ本村さんへ続いているのだと思うと感慨深いです。



『植物図鑑』有川 浩

ある日さやかはマンションの前で倒れていた青年を拾った。お金も行くあてもない青年、樹に同情したさやかは家事をすることを条件にルームシェアを始める。樹は植物にくわしく、さやかを散歩に誘って野草を摘んで料理する。そんな樹にさやかはひかれていくが、ある日突然樹は姿を消してしまい…有川浩のラブコメ代表作ともいわれるあま〜い小説です。

新着案内 ***

『ハヤブサ消防団』

池井戸潤

田舎に引越してきたミステリー作家の三馬太郎。地元の消防団に勧誘されるが、連続放火事件が起こり…ミステリー作家は事件を解決できるのか？

池井戸潤の最新作にして7月ドラマ化決定の話題作です。



『六四五年への過去わたり』

牧野礼

舞台は奈良時代、日本書紀編さんのため、星読みの青年、言祝は焼失した書物を探しに陰陽道を使い、645年へとタイムスリップし、少女、沙々を蘇我氏の館へと送り込むが…

歴史好きさんにもおすすめの一冊。

読書感想文コンクール課題図書はこちら



『中学生のための』

テストの段取り講座』

中間テストが終わったばかりですが、今月末にはもう期末テストが…

みなさん準備はよろしいでしょうか？何事も段取りが大事ですよ。

司書のひとりごと… 昨日の本棚から

『銀河鉄道の父』 門井 慶喜

映画公開で話題になっていたのを読みました。えっ！宮沢賢治ってこんな人だったの?! 驚きです。賢治といえば雨二モマケズのイメージ。岩手で貧しい農家の人たちを指導しながら共に農作業に励んだ聖人君子のような人だったと思っていました。それがこんな親に金の無心をしつつ働かない人だったとは…そういえば「らんまん」のモデル牧野富太郎も借金だらけの人だったとか…裕福な実家に恵まれた人はこんな感じなのかなあ。それでも周りの人から愛されて偉業をなしとげていくのですね。ふりまわされる周りの人の方がよっぽど偉人に見えてきました。賢治に愛情をそそぐ親バカな父も本当に憎めない人でした。

